

被爆体験者の方のお話をお聞きして



2日目に、実際に被爆された佐渡郁子さんにお話をうかがいました。すべて焼けてしまい、食べるものもない。そのために、郁子さんの成長は止まってしまったそうです。郁子さんは、原爆が落ち妹を亡くしました。家族を亡くし、悲しい思いをたくさんした郁子さんが被爆者を代表して望むことは、「戦争反対、二度とやっちはいけない。」それをたくさんの人に伝えてほしいそうです。
〈社中 濱 咲良〉

佐渡さんは練兵場に避難し、水もなく、薬もなく、食べるものもなく、家族も亡くしました。今の自分たちの生活と比べてみてください。美味しい食べ物がある、水が飲める、服が着られる、家がある、家族がいる。普通に生活できることがどれだけ大切なことか分かります。そんな幸せを、唯一あの地獄を味わった日本から伝えていきたいと思います。世界の全ての人々が、その幸せを感じ、理解したとき、本当の平和が訪れるのだと思います。〈下中 濱 太郎〉

オバマ大統領が折った鶴

今年のこの時期だからこそ見る事ができた貴重なものがありました。アメリカのオバマ大統領が折った鶴とメッセージです。謝罪の言葉こそなかったものの、丁寧に折られた鶴と核廃絶への尽力の提言から、少しだけ世界から核がなくなることへの希望を感じることができました。折り鶴についての禎子さんのエピソードを聞いてオバマさんが鶴を折ってくださったのであれば、僕は日本人としてうれしいです。〈下中 山澤 駿〉



改めて感じたこと

下諏訪社中 寺嶋

隼矢

今回、実際に広島まで行き、ここに原爆が落ちたんだということを実感し、自分が今までその事実を『本当はそんなことがなかったのでは』と心のどこかで思っていたことにも気づかされました。でも、それは本当に起こったことなのだと、自分の全てで感じさせられたのです。

他にも、現地を訪れて新たに知ったことがあります。それは物言わぬ語り手の存在です。原爆ドームはあまりにも有名ですが、今回教えていただいたのは『アオギリ』という木です。この木は、あの時爆心地からそう遠くない場所で被爆し、一時は死んでしまったかのように一枚の葉もつきませんでしたが、被爆した方向の幹には閃光の痕が残ったままですが、その後生き返ったかのように葉や実を次々とつけ、今も元気に記念公園に立っていました。

平和公園を案内してくださったボランティアの方と講話をしてくださった佐渡さん。お二人は僕たちに必死に語りかけてくださいました。そして、「私たちの次は、あなた方に原爆や戦争のことを後世に伝えていってほしい。」とおっしゃいました。今回実際に広島に行つてその現実を知った僕たちが、今度は語り手として伝えていかなければいけないのだと思います。

下諏訪町では、中学生が毎夏、「平和体験学習」として広島に出かけ、終戦記念日にその報告会を行っています。これは昨年（一部）の報告です。

私たち8名は、7月30日、31日に広島への平和体験学習に行ってきました。一人ひとりがこの研修に臨むにあたってのテーマを持ち、また、小沢教育長先生からは、「それぞれのテーマの解決」「中学・町民の代表としての自覚」「感じてきた思いの伝達」「両中学校の親睦を図る」という4つの課題をいただいて研修に臨みました。〈社中 長崎 瑛〉



平和記念公園にて



平和記念公園の中心には原爆死没者慰霊碑があります。屋根は「犠牲者の霊を雨露から守りたい」という気持ちからこの形になり、中央には「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」と刻まれた石室があります。この石室には、国内外を問わず、原爆によって亡くなった方々の名前を記帳した原爆死没者名簿が収められています。慰霊碑、平和の灯、原爆ドームが一直線になっています。それぞれを見学して、私は絶対に戦争というものをしてはいけないと心に誓うことができました。〈下中 井口 真甫〉

「原爆の子の像」も見てきました。像のモデルになったのは、佐々木禎子さんという一人の少女です。彼女は2歳の時に被爆。とても元気な女の子でしたが、ある日、白血病によって倒れ入院生活を余儀なくされました。そんな中、折り鶴を千羽折れば病気が治ると信じ、折り鶴を折り続けましたが、その願いは叶うことなく、禎子さんはこの世を去りました。そんな彼女の話聞いた広島の小中学生が中心となって募金活動をして建てられたのが、原爆の子の像なのです。各学校で作った千羽鶴をここにしっかりと奉納してきました。たくさんのきれいな鶴があり、日本全国の人々が平和を訴えているように思えました。〈社中 中村 茉莉〉



原爆が落ちる前の広島市はとてにぎやかでした。特に原爆ドームは広島県産業奨励館といって、館内では広島の名産が売られていたり、ホールがあったりして、当時は珍しいおしゃれでハイカラでモダンな建物でした。だから市民の憩いの場として大勢の人達でにぎわっていました。それは市民の誇りでもあり、憧れでもありました。しかし、戦争が激しくなると、「戦争中なのに贅沢だ」などと言われて事務所が変わってしまいました。戦争はみんなの憩いの場もなくなってしまうので、とてもつらいと思いました。

〈下中 中村 真子〉

太平洋戦争体験者の思いを語り継ぐ



東山田 法泉寺 笠島 信明

今日の日本は平和であると言われますが、世界ではテロや様々の紛争、人種差別等がやむことなく続いていきます。太平洋戦争終戦から早七十二年を迎え戦争の記憶というものが社会から薄れてきています。戦後の世代の人々にとって、学校の授業で歴史的な経緯などを教えられることはあっても、否応なく戦争に巻き込まれ、十分な食糧もない中を生き抜いた体験者の方々による直接の話を聞いて学ぶ機会は少ないのが現状だと思えます。

例年私の坊で東山田高齢者クラブ物故者慰霊法要が営まれております。十七年ほど前、法要後のお齋の席で、出席者自らの戦争体験の話になりました。日本の社会が一昔前の大家族の時代から核家族・少子化の時代へと変わりつつある現在、国内外において太平洋戦争を体験された方々が徐々に減ってきており、高齢者の中には元気なうちに戦争の体験や記憶を次の世代に語り継ぎたいという思いがあるが、そのような機会も場所もないということを知りました。

太平洋戦争を知らない、戦後に生まれた親世代が増える中、次世代を担う子や孫に戦争の悲惨さ、命の大切さ、平和のあり



体験者の話 「長野日报社」提供

洋戦争体験者のお話を聞く会を開くこととなりました。開催当初は東山田にも話をする方がおられましたが、年々体験者の方々の高齢化が進み、今では話せる方がほとんどいなくなつてしまいました。そのため、東山田から下諏訪町内、岡谷市、諏訪市、茅野市、富士見町等地域を広げて話をしてくださる方を探して今日に至っております。

毎回テーマはそれぞれですが、振り返ってみますと、①農兵隊について ②甲府大空襲のこと ③諏訪鉄山と捕虜 ④予科練の思い出 ⑤最後の招集者 ⑥九死に一生、満州からの逃避行 ⑦中央アジアでの抑留生活 ⑧シベリア抑留体験（捕虜から観たロシア人） ⑨険しかった祖国への旅路（敗戦を北満州の開拓地で迎えて） ⑩諏訪鉄山



体験者の話

【長野日報社】提供

と学徒動員について ⑪戦争中の軍国少年の生い立ち ⑫戦時下の満州炭坑教習所について ⑬平和への熱い想い ⑭満州シベリア抑留の思い出 ⑮海軍少年電信兵当時を振り返る ⑯ソ連軍侵攻とシベリア抑留について ⑰日本の戦争（戦争の中の青春） ⑱少年時代の戦争体験（南方パラオ島にて） ⑲戦争末期の米軍B29爆撃機初の日本本土での墜落について等、そ

の多くが涙なしには聞くことができないう悲慘なものでした。シベリアに抑留された男性、生死をかけて満州から逃避された女性の話など、体験者から直接聞く話は何ものにも代え難いものです。戦争当時の軍靴（軍用の革靴）や衣服・ベルト・飯盒（赤紙（召集令状）等、個人的な保管品を見せてくれる方もいらっしゃいました。

現在、東アジアの特に朝鮮半島を取り巻く政治情勢は、混沌かつ誠に不安定であり、国民一人ひとりがいたずらに不安を掻き立てられる状況です。ある体験者の方は、太平洋戦争開戦前夜の状況のようであると言っておられました。

先の戦争により、国の宝とも言うべき将来ある多くの若者が戦場に送られ戦死しました。また、戦場となった多くの国の人々、とりわ

け弱者ともいいうべき数知れない多くの女性や子どもたちが戦火の中に命を落としました。

体験者の方々は、皆同様に、戦争はしてはならない、命は大切にしなければならぬと平和を願っています。このことを思うとき、私たちは自らの子や孫の世代に武器を取らせ、再び戦場に送り出すことだけは決して許してはならないのです。国と国との対立において、戦争の力と力の対決ではなく、あくまでも話し合い・対話によって解決してゆくことが重要ではないでしょうか。

太平洋戦争体験者の方々の直接の話が聞けなくなる時が目前に迫っています。私はこのことを念頭に、以前北小学校で依頼を受け、話をさせていただきましたが、将来的に次世代に繋げるべく、命と平和の大切さを伝える「語り部」として活動していかねければならないと考えている今日この頃です。

「夏期巡回 ラジオ体操・みんなの体操会」が下諏訪町にやってきます！

当日は、NHKラジオ第1で公開生放送されます。みんなでいっしょにラジオ体操を！

主催 株式会社かんぼ生命保険、NHK、NPO法人全国ラジオ体操連盟

共催 下諏訪町、下諏訪町教育委員会

日時 平成29年8月2日（水）

当日のスケジュール

5：30 開場、5：50 集合

6：30～6：40 NHKラジオで公開生放送

会場 下諏訪総合運動場（野球場）

雨天時 下諏訪体育館（室内履き、下足用の袋を持参してください）



イメージキャラクター ラタタ

楽しく絵手紙を描いていきたい

絵手紙教室弥生会

私たちの絵手紙教室弥生会は、真野先生の絵手紙作品を見て、描いてみたいという有志が集まり、平成12年3月に発足しました。以来17年余り、お教室を下諏訪文化センターに設け、毎月1回、第2金曜日に会を開いています。



私は、はがきの大きさに絵を一枚描くことは簡単だと思い入会しました。しかし、草花が咲いている時期に描くとか、花の大きさや、花の数とか、色の出し方とか、何でも描けば良いというわけではないことがわかりました。



絵の基本や常識について勉強しています。最近は小さな布（ハンカチ）やうちわに描くことも勉強しています。

主婦業なので、教室に出られないこともありますが、楽しく絵手紙を描き、下諏訪総合文化祭に出品したいと思っています。

絵手紙教室弥生会

代表 芳沢 喜代子

展示会に出品する作品を目指して

下諏訪弥生水墨画会

私たち、下諏訪弥生水墨画会は、真野玉淳先生の水墨画に憧れ、水墨画を描いてみたいという有志が集まり、平成19年3月、真野先生を講師にお願いして教室を開いていただくことになりました。初心者ばかりなので、当初は水墨画の道具の使い方や目的、そして運筆の初歩から学び、その中で墨の濃淡や水墨画用紙についても詳しく学んできました。

紙によって作品の表現が違ってくるとも勉強してきました。教室は、月一回（土曜日）総合文化センターで開き、その月のテーマにより先生の描いていただいた題材を中心に勉強しています。山水画（蓼科山、八ヶ岳等）、花鳥画、人物画などがあります。水墨画は、基本となる運筆や墨の濃淡が理解できていないと、思うように描くことができないので、いつも基本に戻って勉強しています。そして一生懸命に描いた作品を、毎年開かれている、町の総合文化祭に出展するとともに、他の展示会にも出展しています。現在会員は高齢者がほとんどですが、水墨画を描いてみたいと思われる方は、いつでも入会を歓迎しております。



下諏訪弥生水墨画会 代表 今井 康

公民館特別事業 「みんなの願いはひとつ」

特別展 ～いっしょに考えてみませんか～

期 日：8月7日（月）～8月18日（金）

会 場：下諏訪総合文化センター1階 展示コーナー

内 容：写真展示

町民総合文化祭 参加団体募集

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口にあります。 ☆新規参加団体歓迎

	開催日	申込締切	対象者
作品展	9月29日（金） ～10月1日（日）	8月25日（金）	町民および町内の 各種団体・学校 ※作品展は個人も対象となりますので、ご相談ください。
芸能祭	10月1日（日）		
音楽祭	10月15日（日）	9月1日（金）	

〈お問い合わせ・申込先〉下諏訪町公民館 ☎28-0002

町民大学 下諏訪を学ぶ ③

演 題：「28丙申年御柱祭をふりかえる～次世代につなぐために～」

講 師：伊藤 文夫（長野県地理学会 理事）

日 時：8月20日（日） 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可（受講料100円）



平成28年は諏訪地方が御柱年で大いににぎわった一年でした。反面、少子高齢化が進む中で、各地の御柱で新たな問題点も生まれてきています。昨年地区の総代として御柱祭に関わった経験と、大社と小宮の御柱、さらには諏訪以外の御柱を見てくる中で、次世代につないでいくためには、諏訪の氏子たちがどのように御柱の伝統を継承していったらよいか、を考えあえればと思います。（講師コメント）

お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

ハフソウ

八月、昨年は「全国市町村交流レガッタ」というボートの大会での優勝を目指して諏訪湖艇友会というチームで、練習を繰り返していた月でした。私はコックス（舵手）としてのクルー参加でしたが、なかなか思うようにいかず、練習が始まってから苦戦する時間が長く続きました。それでもなんとかギリギリでコツをつかみ、埼玉県戸田市での大会本番を迎えました。

あつという間にレースの時間になり、スタート位置につきました。アテンション・・・ゴーの合図と同時に各艇がスタート。舵を取るのに必死でクルーへの声かけがあまりできませんでしたが、予選を勝ち抜きました。

続く準決勝も突破し、いよいよ決勝戦。緊張と不安でいっぱいの中、クルー全員で円陣を組んで団結し、レースに臨みました。レースの最中は監督はじめ下諏訪のクルーの応援が本当に良く聞こえました。私にできることは、声を出すことだけだったので、できるだけ大きな声を出しました。結果は、優勝！今までに感じたことがなかったくらい喜びがありました。この大会では本当に良い経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱい、もらったメダルは私の宝物です。

（武田 一真）